



＜日本農業経営大学校＞ ゼミ紹介～小野ゼミ～

日本農業経営大学校では4つのゼミを設けており、学生はいずれかに所属することとなっています。

4つのゼミは、松尾ゼミ（主にマーケティング）、前田ゼミ（主に食と農業）、小口ゼミ（主に地域づくり）、小野ゼミ（主に食料消費）です。今回は、この4月より着任しました小野（小野ゼミ）についてご紹介します。

■ゼミについて

小野ゼミでは、農産物の流通や消費、食生活について学ぶことに力を入れています。農業経営をおこなう上で、もっとも大事なものは農産物の生産です。しかし、作ったものから対価を得て経営を続けていくには、生産物が消費者や実需者のもとへ届き、「欲しい」「食べたい」「使いたい」と思ってもらう必要があります。1人当たりの食料消費量はすでに頭打ちで、人口そのものも減少を始めた日本においては、今後、流通や消費の実態を捉えて農業経営をおこなうことが、より一層大事になっていくのは間違いありません。また、農産物の生産を通じて、消費者が抱える課題の解決に資することも、農業の社会的な使命です。

本ゼミでは、生産物がどのように流通し、消費されているのか、その仕組みや実態について、文献輪読や消費者調査、現場の視察などを通じて学び、卒業後の農業経営に結びつけて考えていきます。

■前期の取り組み内容

今年度前期は、時子山ひろみ『フードシステムの経済学 第5版』（医歯薬出版株式会社、2013年）を輪読して、食品の生産から消費までの過程であるフードシステムの基本を学んだほか、1年生は実教出版の教科書『新版 食品流通』を用いて食品流通の基礎的知識を確認しました。2年生は、現代の家族の食卓の実態に鋭く切り込んだ、岩村暢子『変わる家族変わる食卓』（中公文庫、2009年）を題材に、きれいごとでは済まない消費者のニーズについ



△ゼミの様子

て、これまでの自分の食体験も踏まえて議論を行いました。

現地視察では、デパートの食品売り場と農産物直売所というタイプの違う2つの流通形態を視察しました。デパートの食品売り場視察では、都内の有名デパート4か所（新宿タカシマヤ、伊勢丹新宿店、銀座三越、松屋銀座）を巡って、品揃えや販売方法の工夫、価格帯や客層を調査しました。ゼミ生は、実家で生産しているのと同じ野菜や果物を探し、値段の高さに驚いたり、加工のヒントを得たり、実際に購入して味をみたりと熱心に見て回りました。

歩き疲れたところで、銀座にある「AKOMEYA TOKYO（アコメヤトーキョー）」へ。お米に焦点を当てたライフスタイルショップということで、おしゃれな店舗の雰囲気を楽しんだ後、併設のレストランで食事をしました。出てくる料理はおしゃれでこだわりを感じるものばかりですが、若い男性ばかりの小野ゼミ生からは「量が少ない！高い！」という意見が





＜日本農業経営大学校＞ ゼミ紹介～小野ゼミ～

もつぱらでした。店内は女性のグループばかりで、「女性はこういうのが好きなんです」と、自分たちとは異なる嗜好の消費者に思いを馳せる経験になりました。



(左) おしゃれな店構えや陳列 (右) 男性陣には上品すぎた料理

6月には、神奈川県藤沢市にある JA さがみの直売所「わいわい市藤沢店」を訪問。店名の通りにぎわいのあるお店で、日曜日の訪問ということもあり、店の前には駐車待ちの車の列が。店長の佐藤さんのレクチャーでは、ポップの書き方、包装や陳列のひと手間等、わいわい市での農産物販売の実例をたくさん紹介いただき、直売所における売り方のコツや農産物加工のアイデアに触れることができました。高度なセンサーや自動段ボール箱折り機など、最新鋭の設備を導入したトマトの選果場も見学させていただき、農産物流通において、人間が手をかける部分と効率化する部分、2方向の工夫を一度に学ぶことができました。



(左) 佐藤店長から説明を受ける学生

(右) 選果場にてトマトの出荷についてのお話

■後期の取組み予定

後期は、前期に学んだことを踏まえながら、ゼミ生それぞれがおこないたい農業経営の姿を明確にし、1年生は就農計画、2年生は事業計画の作成に取り組んでいきます。具体的には、自分が栽培したい品目についての知識を深めるために統計データの利用法を学んだり、消費者のニーズを把握するために、普段農産物を購入している人たちにグループインタビューやアンケート調査をおこない、結果を分析したりする予定です。

ゼミを通じて、適切な情報を手に入れ分析・検討する力、多様な視点からものを見る力、食べ手・使い手の感覚を想像し理解する力を身に付けていきたいと考えています。



小野 史

主な経歴：東京大学大学院 農業・資源経済学専攻 博士課程単位取得退学。独立行政法人農研機構 中央農業総合研究センターにおいて食料消費分野の研究に従事した後、本校の専任講師となる。

担当業務：経営力領域の授業サポート、ゼミ指導



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management

※本誌の無断転用・転載を禁止します。

[発行人] 一般社団法人アグリフューチャージャパン

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-10-1 有楽町ビルディング 10階

TEL: 03-3213-3252 FAX: 03-3213-3251